



ジュゴン Vol.107

ちゃんぷるニュース

SDCC 2019. 11. 26

Save the Dugong Campaign Center

CONTENTS

- 2/3 情勢・真の世界自然遺産登録のために
- 戸惑う環境監視等委員
- IUCN/SSG の動き
- 4/5 沖縄県交渉報告
- 辺野古大行動
- 6/7 わんさか通信★ジュゴンのわ
- コラムー首里城炎上とジュゴン



9月9日に開催された「第21回環境監視等委員会」の議事録が、沖縄防衛局のホームページにアップされました。行方不明のジュゴン個体A・個体Cについて各委員から「調査の範囲を広げて調査すべき」「航空調査の方法を考える必要がある」「周辺の離島も含めて調査すべき」などの意見が上がったが、沖縄防衛局は「事業の目的からして直ちに範囲を拡大するのは難しい」とジュゴンの生息調査について消極的な回答でした。

一方沖縄県は、絶滅の危機が心配されるジュゴンの保護、とりわけ個体A・個体Cの生息調査・保護が急務です。その元凶である辺野古新基地建設を阻止する積極的な行動が求められているのです。

国際世論と辺野古現地の取り組みを結んで

このような中で、辺野古現地では粘り強い闘いが連日取り組まれています。10/21~25の5日間、「あつまれ辺野古~500人集中行動実行委員会」の呼びかけで、「10/21~25 辺野古新基地建設ストップ~連続5日間集中行動」が取り組まれました。名護市安和の棧橋前に連日集まり、「辺野古新基地建設阻止」「税金を無駄遣いするな」と抗議の声を上げました。現地の闘いは決してあきらめていません！

先日うれしい情報が入りました。米環境 NGO が選ぶ世界で最も重要な海域「ホープスポット」に、沖縄県名護市の辺野古周辺海域が認定されたことです。日本の海域が選ばれたのは初めてで、米軍普天間飛行場の移設に伴う開発で希少な生態系が失われるとして工事の見直しを呼び掛けています。

ジュゴンの保護について IUCN（国際自然保護連合）の世界大会で4度の勧告決議が出されています。世界から注目されている辺野古・大浦湾の豊かな自然を守り、絶滅の危機に瀕している沖縄のジュゴン保護を訴えていきましょう。
(首都圏 三村昭彦)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



10/25 ホープスポットの記者会見 (3面)
写真提供：日本自然保護協会



9/21-22 おきなわ写真展 (6面)

真の世界自然遺産登録実現のために



◎ 国際自然保護連合が来日

10月初めに国際自然保護連合(IUCN)が、世界自然遺産推薦地「奄美大島・徳之島・沖縄島北部および西表島」を調査するために来日しました。前回の世界自然遺産申請はIUCNの評価で「記載延期」となり、いったん日本政府は取り下げました。そして、IUCN が指摘した「分断された小さな推薦地」問題を解決するために、米軍北部訓練場跡地を「やんばる国立公園」に編入させたのです。しかし、やんばる国立公園自体が多くの問題を抱えています。「やんばる型森林業の推進」(沖縄県 2013年 10月)は「自然環境の保全と環境に配慮した利活用の推進」の名のもと、リゾート開発を進めるために国立公園第2、3種特別地域での森林皆伐を進めています。山を丸裸にすることで、ノグチゲラの営巣林、イタジイが急速に減少しています。乱開発を中止し、生態学的な調査を行うことが必要です。

◎ オスプレイ訓練の中止を

また、米軍によるオスプレイの低空飛行訓練による排気熱や騒音は、やんばるの生物に大きな影響を与えています。世界自然遺産推薦書に添付された「世界自然遺産への推薦について米側との合意文書」(推薦文書付属資料5-53)の履行を米軍に強く求めるべきです。

◎ 辺野古大浦湾一帯が「ホープスポット」に

森・川・海のつながりを保全することも極めて重要です。「生物多様性おきなわ戦略」(2013年 3月)の「目指すべき地域の将来像・北部」でも「森と海の繋がりを大切に、人々の生活と自然の営みが調和している地域づくり」を強調しています。今年 10月、辺野古大浦湾一帯が「ホープ・スポット」(希望の海)に認定されました。世界的に有名な海洋学者が立ち上げた NGO で、最も重要な海域 110 か所以上が登録されています。日本自然保護協会、ジュゴン保護キャンペーンセンターなど 11 団体が申請し、日本で初めて認定されました。来年 2月に向け、真の世界自然遺産登録実現を求めて大きな声をあげましょう。



9月18日「やんばるの森を『真の世界遺産』に」セミナー
写真提供: 辺野古・高江を守ろう! NGO ネットワーク

「国際的な批判に戸惑う環境監視等委員」

◎ IUCN 来日にあわてる「環境監視等委員会」

10月8日に第21回環境監視等委員会(9月9日実施)の議事録が公開されました。沖縄ジュゴンの死因や行方不明について「真剣」に議論しているのです。9月下旬に国際自然保護連合(IUCN)海牛目専門家の作業部会が日本で開かれるからです。監視等委員会に参加するジュゴンの専門家らは IUCN の来日と、公開される委員会議事録を意識して「行方不明のジュゴン」をできる限り調査すべき」と事務局に訴えているのです。だが、委員会事務局の沖縄防衛局は「広域的な調査は事業目的ではない」と一蹴。委員長は沖縄防衛局サイドでまとめようと必死。

◎ 沖縄県の態度も問われています

一方、当事者である沖縄県は、沖縄ジュゴンの危機的

な状況を検討する IUCN の作業部会を欠席。しかも、IUCN 作業部会の「現状評価と今後の対応」を防衛省、環境省に突きつけることすらためらっているのです(4面・県交渉の報告参照)。2000年 IUCN 勧告決議「沖縄島およびその周辺のジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナの保全」をはじめとする4回の勧告/決議と、IUCN 海牛目専門家が日本で作業部会を開催した国際的な要求を受けとめるべきです。

◎ 防衛・環境・外務省交渉をおこないます

11月29日の防衛、環境、外務省交渉で、防衛省には事業者責任を、環境省・外務省には IUCN の要請を実行するの可否かを厳しく追及します。

(事務局 蛭川義章)

ジュゴンの死と IUCN/SSG の動き

IUCN/SSG：(国際自然保護連合の「種の保存委員会」の「海牛目専門家グループ」)

今年3月、沖縄本島今帰仁村の海における一頭のジュゴンの死は、私たちに大きな衝撃を与えました。しかし今、その死が、IUCN(国際自然保護連合)を中心とした国際的動きに繋がり、ジュゴン保護の新たな取組みの可能性を示しています。以下、その動きに関わってきた立場から報告します。

◎国際機関への呼びかけ

SDCCは、今回のジュゴンの死を受けて、まず米国「ジュゴン訴訟」を支援する米国の海洋哺乳類の専門家とコンタクトを取り、助言を求めました。そしてその助言を踏まえ、IUCNの「種の保存委員会」の「海牛目専門家グループ」(SSG)に、国際機関としての対応を要請しました。

数少ない沖縄ジュゴン個体群の一頭が失われたことは、IUCN/SSGにとっても衝撃的なことで、すぐに2つの対応が可能であることが伝えられました。一つは、過去5年間における沖縄ジュゴンの生態や海草藻場の情報を検証し、沖縄ジュゴンの個体群を再評価すること。もう一つは、関係者を集めたワークショップを日本で開催し、IUCN/SSGとしてさらに何ができるのかを検討することでした。

◎IUCN/SSGのワークショップ

9月24日から26日に三重県の鳥羽水族館で開催されたワークショップは、IUCN/SSC、「ジュゴンの覚書き」(ボン条約)、海洋哺乳類、海草藻場、音響調査の専門家、鳥羽水族館のメンバー、そしてSDCCを含むNGOが参加しました。日本の環境省や沖縄県環境部も参加要請を受けており、環境省はオブザーバーとして参加し、沖縄県環境部は資料の提供を行いました。参加者は合計11名でした。

ワークショップは、IUCN/SSCが沖縄ジュゴンの個体群をCritically Endangeredとして再評価したことを踏まえて進められました。この評価は、表現としては、環境省の国内評価と同様ですが、2000年以降、IUCNが求めてきたジュゴン保護を20年かけても出来なかったことを突きつけられる非常に厳しいものです。

ワークショップ1日目は、環境省から日本のジュゴン保護の法制度や取組みの説明がなされ、熱心な質疑応答が続きました。2日目は、沖縄県の提供した資料の確認し、その後、生息の有無の確認が何よりも緊急であるとの認識のもと、多様な調査方法、ジュゴンの確認に向けた啓蒙活動の提案が行われました。最後の3日目は、その提案を全員で再検証し一つの文書にまとめる作業を行いました。そしてワークショッ

プ後1ヶ月をかけて、メールでのやり取りを通して提案書を完成させました。近々IUCN/SSGの方から正式に提案書が発表されます。

◎注目すべきこと

注目すべきことが3点あります。まず1点目は、今回の提案書に「生存の有無を判断」「日本の絶滅危惧種のリストにおいて8番目の絶滅哺乳類となる恐れが極めて高い」等の文言が入っていることです。これらの文言は、日本政府や沖縄県だけではなく、NGOを含めた日本社会全体に対して、厳しい評価がなされていることを意味しています。提案書を日本政府、沖縄県、NGOがどう受け止め、どう対応するかが問われています。

2点目は、沖縄ジュゴンは辺野古・大浦湾での米軍基地建設との関係で議論されてきましたが、今回IUCN/SSGは、基地建設問題とは距離を置く形で、南西諸島全体におけるジュゴンの確認調査を提案していることです。これはIUCN/SSGの科学的保全機関としての立場を考慮すれば当然だと言えます。

そして3点目は、IUCN/SSGは基地問題とは距離を置きながらも、今回のワークショップの参加者の旅費や経費を、米国政府機関である海洋哺乳類委員会(MMC)から出させたことです。これは、2000年以降、MMCが、米国海洋哺乳類保護法に基づき、基地建設問題に懸念を示してきたことと関係しています。これは同時に、IUCN/SSGとMMCの立場を理解して対応することの必要性を示唆しています。

◎提案書を活かす

IUCN/SSGによる沖縄ジュゴンの個体群の再評価や提案書は、今後のジュゴン保護の活動に大きな意味を持つと言えます。何よりも「基地建設はジュゴンに影響しない」としてきた日米政府の主張に対する反論の材料となりえます。また日米政府が行ってきたジュゴン保護の対策を再検討させる材料になります。ジュゴン保護と基地建設問題のバランスを考慮しながらどのように提案書を活かしていけるのか。SDCCを含むNGOの力が問われています。(国際担当 吉川秀樹)



嘉陽のジュゴン A (2018年12月3日 琉球新報)

沖 縄

～集まれば止めることができる～

10. 21～25 ・ 5 日間大行動

防衛局の思惑を超え、一粒の土砂も搬出させることを許さなかった1週間となった。

防衛局は、琉球セメント安和棧橋・本部塩川港での埋め立て土砂搬出阻止大行動を見越し、その前一週間かけて棧橋構内での赤土ストックの増量に躍起になっていた。

月曜日は、台風20号の影響を見越して搬出作業は見送られ、火曜日は例の休日で一切の作業は無し。

水曜日、防衛局は市民の力を甘く見ていた。午前6時45分いつもの時間に棧橋構内で赤土を運搬する空ダンプ8台をゲートから入れようとした。しかし、6時ころから結集した市民の数はこの時点で40名を超え、構内に入ることができないと見た防衛局はダンプを棧橋ゲート前からUターンさせた。県警機動隊は姿を見せない。東京動員あつてのことだろう。防衛局は空のダンプさえ入れてしまえば県警の力はいらないと見たのだろう。しかし、そのダンプさえ棧橋構内に入れることができなかったのだ。この日はもちろん塩川港からの搬出もできず、150名を超える市民の結集の前に海上搬出は完全にストップした。

徹夜での監視団も組まれた翌日。やはりこの日も午前7時前、空のダンプ8台が棧橋構内に入ろうとゲート前の国道に列をなした。前日と違うのは、まったく帰ろうとしない。8時前に県警機動隊が本部岬方面に向かったとの情報が。これを待っているのかと緊張が走る。しかし、県警は、市民の結

集状況と機動隊の態勢を測っていたのか、9時30分ころ辺野古に向かった。同時ににらみ合いを続けてきたダンプが撤退を始めた。ゲート前に歓声が沸く。

この日ももちろん塩川港での搬出作業もできず、機動隊が向かった辺野古でも100名の市民の結集があり、資材等の搬入は無かった。

午後5時、接岸していた運搬船が空しく離岸。午後6時過ぎ機動隊が引き返したとの情報、同時に琉球セメント鉾山内で待機していたダンプもそれぞれの帰路についた。

金曜日、安和棧橋行動金曜担当の平和市民連絡会のメンバーを含め150名に及ぶ参加者の前に完全に防衛局も土砂搬出を諦め、県警も全く姿を見せなかった。

(沖縄 高垣喜三)



大行動に続々と集まる抗議の市民

大行動に参加して



塩川港で土砂搬入を阻止する

10月24日から4日間、友人たちと名護に行ってきた。塩川港で現地の方から説明を聞きゲート前の行動に参加した。全国から参加した人達と一緒に座り込み、時折ウオーキング、歌、シュプレヒコールを交えての楽しいものだった。でも、石垣から参加した方の話を聞き石垣・宮古島でも戦争するための基地づくりが着々と進められ日本が戦争する国に向かっていると感じた。2年前、瀬嵩の浜から大浦湾を見た時、すでに、監視船が浮かびブイが並んでいたが、広々とした海を眺めていると「海の青さと空の青♪～」が聞こえてくるようだったが今回は全く違う風景になっていた。多くの運搬船、埋め立て地で作業するトラックの様子も双眼鏡を覗くとはっきり見えた。

守るべき物、残すべき物は、ジュゴンやアジサシがすむ海。沖縄の自然と人々の生活。闘い続けるおじい、おばあ姿を忘れず、また沖縄に行こうと思う。その時は、素晴らしい自然に触れ楽しみ「守りたい、壊させない」と感じる心も大切に行動に参加したいと思う。でたらめな安倍政権に私達の子や孫の未来は絶対に託せない！

(大阪 中野佳恵)

抗議船から見た辺野古の海

安和棧橋の集中行動 3 日目に参加し、翌 24 日は辺野古で抗議船平和丸に乗せてもらいました。沖縄島最大級だった海草藻場のあたりでは、ウミガメが船のそばをすいっと泳いでいきました。産まれた浜に戻ってくるウミガメ、護岸が出来てしまっはもう産卵することが出来ません。

辺野古崎から伸びている K8 護岸では、テトラポットの敷設作業が行われていて、船から「豊かな海を守りましょう」「作業をやめてください」と呼びかけましたが、同じく抗議していたカヌーチームは海上保安官に拘束され、松田ぬ浜（辺野古の浜）までゴムボートで運ばれてしまいました。

土砂投入後、雨が降ると大浦湾は赤土で濁ってしまいますが、この日船から見た海は、とてもきれいでした。早く工事を止めて、もとの清々しい海に戻ってほしい。環境を破壊し、民意に反して進められている基地建設。おかしいと思うことに声を上げるのは市民の権利です。ジュゴンの海を守れの声を広げていくことを更に心に刻みました。



(関西 山根富貴子)



澄んだ海をすすむカヌー一隊



K8 護岸ですすむテトラポット敷設



「沖縄県は市民運動の激励を！」（11/1 沖縄県交渉）

11月1日（金）午後4時から県交渉を持ちました。沖縄県から基地統括官、辺野古対策課長、自然保護課長、海岸防災課長。私たちSDCCCから4人、沖縄環境ネットワークから桜井国俊さん、真喜志好一さんと東恩納琢磨名護市議。社大党1人、共産党2人の県議が参加しました。沖縄県が市民・県民に寄り添ってジュゴン保護、新基地建設阻止に取り組むことを強く求めるものでした。

まず、9月下旬に来日したIUCN（国際自然保護連合）種の保存委員会海牛目専門家による作業部会に沖縄県が参加しなかったことです（環境省は参加）。沖縄ジュゴンが絶滅の危機にある最中の検討会に「担当の体調が悪かったので」と不参加。沖縄県の姿勢に唖然とし、怒りを感じました。

次に、米国連邦裁判所でのジュゴン訴訟控訴審の公開審理に向けて、玉城デニー知事に昨年4月翁長知事が送った「国防総省に協議を求める手紙」を再度送ることを求めました。昨年8月地裁判決で原告は敗訴しましたが、翁長知事が提出した手紙で「国防総省が沖縄県の意見を聞いていなかった」ことが判決に記載されているのです。地裁判決以降の新たな事実を審理する控訴審に、今回のIUCN評価書とともに、玉城デニー知事が国防総省に再度手紙を出す

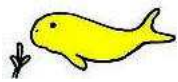
ことは極めて重要です。しかし、沖縄県は「情報が欲しい」と躊躇ばかり。厳しい迫及の前に「手紙を出すタイミングを早期に検討する」ことを確認しました。そして、2020年世界自然遺産登録を実現するためにも、「ノグチゲラの営巣林の伐採の中止」と「オスプレイ訓練の中止」を米軍と環境省に求めることを要請しました。

沖縄県交渉をふまえて、11月29日に防衛省、環境省、外務省交渉を設定しています。それまでに、海洋ほ乳類委員会、国家歴史諮問委員会に働きかけるための訪米を準備しています。（事務局 蛭川義章）

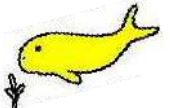


県は米軍、環境省に要請をせよ！（沖縄県交渉）

報告



おきなわ写真展を行いました!



9月21日・22日と2日間に渡って主催イベント「おきなわ写真展・子や孫に残したい海～辺野古・大浦湾」をレンタルスペースチャクラで行いました。大阪天神橋筋商店街の中にあり、日本一長い商店街として有名な場所です。人通りも多くたくさんの方で賑わいました。

写真は、沖縄で活躍する牧志治さん。写真展に駆けつけていただきトークタイムを2日に渡っていただきました。牧志さんは辺野古の現状を知るためにダイバーとしても何回も大浦湾の海の潜り、実態を調査。大浦湾のサンゴも以前は白化現象が起りましたが、この海だけはサンゴが回復している、他の海とは違う貴重な場所だ、とお話してくれました。大浦湾の独特の地形が多くの固有種を生み出し、再生にも大きな影響を与えているのかと思うと本当に守らないといけない場所だと実感しました。

また久しぶりに顔を出してくれた仲間や、沖縄の現状を知るためにわざわざ来てくれた人など有意義な時を過ごすことができました。
(関西 上田千鶴)



シリーズ じゅごんの里ツアーで学ぶ (その2)



愛あふれるピースキャンドル行動 ～ 渡具知家の人々 ～



毎週土曜日 18時半からキャンプシュワブゲート前で、2004年から続けられているピースキャンドル行動。二見以北 10 区の会の渡具知一家が中心です。

2008年のじゅごんの里ツアーで初めて参加した時、渡具知家の双子ちゃんはまだ小さくて「大浦湾を守ろう」とかわいく声を挙げていました。今年参加した時、二人はもう高校3年生で頼もしく成長していました。「沖縄の現状をより考えるようになりました。若い人たちの新しい動きもあり、もっと活動していきたい」と和奏さん。ご両親はとても嬉しそうです。

ジュゴンの絵の看板は、和紀さんのお手製です。「上のピンクのハートはジュゴンを守りたい人たちの気持ち。ジュゴンの下の赤いハートはジュゴンがみんなの気持ちを守っている様子」だそうです。なんとも素敵な看板です。私たちは守られているんですね!

二人は来春それぞれ巣立っていきます。寂しくなるので応援に来てねとお父さん。「辺野古新基地建設は絶対止まる!」と力強い。15年間続けられているピースキャンドル行動、継続は力なり! だけど、早く終わらせたい。

辺野古へ行ったら、ぜひピースキャンドル行動にも参加して下さいね。
(関西 池側恵美子)



首里城炎上とジュゴン - ~こらむ・コラム~

10月31日未明に発生した首里城火災は電話で起こされテレビで見た。衝撃映像に2001年9・11のニューヨーク同時多発テロを思い出し、「そこまでやるか!」の声響く。9・11の真相は未だに不明だが、ただ、ペンタゴンに墜落したはずのダグラスの機体は見あたらず炭疽菌騒動もうやむやのまま。その後ブッシュの仕掛けたテロとの戦いやイラク戦争で米国の軍需産業が莫大な利益を得たことを考えると、米国の自作自演であった可能性はやはり否定できない。

人類が滅亡するはずの預言された20世紀末を無事過ぎ、戦争のない平和なミレニアムを迎えて世界中が喜んだ矢先の9・11であった。しかし、平和になったら困る人たちがいたのは確かであった。今回の首里城火災も似たような事件に見える。

実は国立公園首里城の所有権は日本政府にあるのであった。今年2月公園管理を沖縄県に委託されたものの、首里城は未だ明治国家による琉球処分象徴である沖縄神社であることに変わりはないのであった。煮て食おうが焼いて食おうが…。

火災が起きたのは首里城祭の最中であった。琉球国王と王妃の行列や空手の演舞などで国際通りは埋め尽くされ、10月30日は世界ウチナンチュの日で賑わった。だがしかし、このような平和な琉球王国を祝う祭りが勝手に行われているが、令和天皇の即位を国民全体で祝うべきとする安倍政権にとって目障りであることは間違いない。辺野古新基地建設強行を見ても明らかであるように政府は琉球の平和の象徴ジュゴンを何がなんでも潰すつもりでいる。

先日、2018年9月の台風25号に紛れて大浦湾に細菌兵器の毒物を撒いているのを見たとの目撃情報も得たばかりである。そのことを自称元グリーンベレーのH氏がシュワブゲイト前で話してくれたが、その時にジュゴンAとCは死んだという。確かに、辺野古の浜でジュゴンBの追悼コンサートをやった時、二枚貝の稚貝の殻が異常に多く打ち上げられていたことと符合する。それに、Bの死因とされるエイの棘も、撃ち込まれた可能性は否定できない。そんな中での首里城火災、果たして真相はどうか。

海勢頭豊 (うみせど ゆたか : SDCC 共同代表)

① わんさか通信 ★ ジュゴンの ①

「絶滅の可能性が高い」

ふと目にした新聞に、「ジュゴン航空調査拡大」の文字が。

調査が行われるとは朗報♪と読んでいくと・・・衝撃的な言葉が！今年9月沖縄防衛局で行われた環境監視等委員会「ジュゴンは絶滅の可能性が高い」と発言があったそうだ。

そんなあっさり発言しないで頂きたい。首里城を失い、ジュゴンまで・・・とても受け入れられません。


土砂投入から11ヶ月が経つ辺野古周辺では、確認されていたジュゴン3頭のうちの1頭が今年3月に今帰仁村で死骸が発見された。別の2頭の生存は長い間確認されていない。

離島や本島の他の場所でジュゴンが確認されれば喜ばしいニュースですが、では辺野古海域に棲んでいたジュゴンはどうした??米軍新基地建設がジュゴンに悪影響を及ぼしてはいませんか?

無くなっちゃったね悲しいね、では済まない問題です。沖縄の歴史と共に存在していたジュゴン、そして首里城。モノは復興できたとしても命ある生き物はどうやっても蘇らせる事は不可能なのに。(沖縄 小平裕美)

沖縄タイムスより



<p><首都圏> 12/2 (月) 18:30~19:30 防衛省前抗議・申し入れ行動 @防衛省前 (JR市ヶ谷駅) 主催: 辺野古への基地建設を許さない実行委員会</p>	<p style="text-align: center;">《 今後のスケジュール 》</p> <p style="text-align: right;"><関西></p> <ul style="list-style-type: none"> ・じゅごん茶話会 12/19 (木)、1/23 (木) 14:00~ @SDCC 関西事務所 ・全交スピーキングツアー 12/7(土) 兵庫 西宮市立勤労会館 18:30~ 12/8(日) 大阪 PLP 会館 13:30~ <div style="text-align: right;">  </div>
--	---

10・20 アジアはともだち 命どう宝 団結まつり(東京)



10月20日、江東区亀戸中央公園で「アジアはともだち 命どう宝 団結まつり」が開かれました。エイサーや三線演奏、獅子舞、団体のアピール、そして

メインゲストに沖縄から周璇家の金城美さんと、韓国から舞台女優のユ・ミョウさんが来られました。

金城美さんは「安倍首相は沖縄に寄り添うと言ったが真っ赤な嘘である。沖縄県民を無視し沖縄には民主主義がない。不当な圧力は許せない。時代とともに戦争の事を風化させてはいけない。40年間にわたり差別を受け抑圧された民衆と沖縄戦の歴史を忘れないために新たに抗議のため

慰安婦像を制作した」と話され、作品の写真が展示されていました。

韓国のユ・ミョウさんは演劇を通して、戦争と核について考えながら演じていると報告。

SDCCのブースでは署名集めとグッズ販売に、今年もオリオンビールとスタッフ手作りのサーターアンダギーを販売しました。天気にも恵まれ楽しい一日でした。

(首都圏 矢敷克子)

11.4 大阪 団結まつり



11/4 扇町公園で開催された団結まつりには沖縄平和運動センター議長の山城博治さんが登場!

SDCCのおでんは大好評で完売! 署名もたくさん集まりました。

第二弾 OKINAWAじゅごんを救え! 大騒ぎキャンペーン 続行中一、ご参加を!



河野太郎防衛大臣宛にハガキをリニューアルしました!
 同封していますので、あなたのメッセージを添えて、どうぞ投函して下さい!

危機的状況のジュゴン…。ジュゴンBが死亡してから8ヶ月が経ち、ジュゴンA、Cは行方不明のままです。何の科学的根拠も示さず「工事の影響ではない」という防衛省にだまされているわけには行きません。工事を停止し、生息状況の広域調査をし、保護策を実施すべきです。ジュゴンは国の天然記念物、辺野古の海草藻場は貴重な生息域なのです。

声を挙げましょう! 周りにも呼びかけてください! 何度でもハガキを出して下さい!
 皆の力で大きなうねりを創っていきましょう!

◆ハガキお送りします ⇒必要枚数、送り先を事務所へお知らせください
 (送料・カンパをお願いします)

◆HPからプリントアウトもできます

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.107 2019年11月26日発行
 ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
 〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1
 第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377
 ○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
 (関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号 京橋ベース
 (旧野口ビル) 302号 TEL/FAX 06-6353-0514

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:
 加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター
 口座番号 00140-9-660199
 他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 ○○八支店
 口座番号 普通 8159084

ちゃんぷるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
 お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!